

ピアレビュー委員会 (第3部会)

2019年度 (対象年度: 2017~2018年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準1	理念・目的
-----	-------

総評

- 0101 研究科の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものであり、育成する人間像も明確であるという事であり、適切に設定されている。ただ、これらと大学の基本理念・使命・教育目的との関連性については再検討の必要があるとのことであり、今後の改善が望まれる[0101a][0101b][0101c]。
- 0102 研究科の教育研究目的や育成する人間像は、学生便覧等、適切な媒体を使って明示されており、記述にも齟齬は無く、周知、公表されている[0101a][0101b][0101c]。ただ、学生の周知度が不明とのことであり検証の必要があると思われる。

長所・特色

- 0102 研究科の教育研究目的や育成する人間像が、学生便覧等、適切な媒体を使って明示されており、記述にも齟齬は無く、周知、公表されている点[0101a][0101b][0101c]。

留意点

*各項目に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

- 0102 大学の基本理念等と研究科の教育研究上の目的との関連性の検討。【B】
- 0102 研究科の教育研究目的や育成する人間像の、学生の周知度の検証。【B】

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 2	内部質保証
------	-------

総評	
0203	2017・2018 年度には自己点検評価はされていないという事なので、今回を機に自己点検評価のシステムの構築が望まれる。
長所・特色	
	特になし。
留意点	
	*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
0203	自己点検評価システムの構築。【B】

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 4	教育課程・学習成果 (1)
------	---------------

総評	
0401	博士前期課程のDPは適切に設定、公表されているが、博士後期課程のDPが公表されていない[0401a]。
0402	博士前期課程のCPは適切に設定、公表されているが、博士後期課程のCPが公表されていない[0401a]。博士前期課程のDP、CPについて、研究者と専門職業人を目指す学生のいずれにも対応できるよう設定されている[0401a][0402a]。
0403	社会人院生に対応した夜間開講や休日を利用した教育を実施している[0403c]。専攻間で授業編成などの情報を共有できている一方で、各専攻の会議は不定期開催のため専攻間の連携が乏しく、研究科として体系的な教育課程の編成・実施がなされているか不明確である。
長所・特色	
0402	博士前期課程のDP、CPについて、研究者と専門職業人を目指す学生のいずれにも対応できるよう設定されている[0401a][0402a]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0401	博士後期課程のDP、CPの設定が必要である。【A】
0403	研究科として体系的な教育課程の編成・実施を確保するため、専攻間のさらなる連携が望まれる。【B】

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 4	教育課程・学習成果 (2)
------	---------------

総評	
0404	各指導教員から適切な履修指導が行われているが、研究指導計画に基づく研究指導は専攻内で統一が十分にとれていない。シラバスには必要事項が明示され、各科目について授業内容との整合性が第三者点検に付されている [0404b]。しかしながら授業がシラバス通りに実施されていることの検証が行われていることは確認できない。学生の主体的な参加を促す工夫がなされている授業がある一方で、その取り組みに教員間のばらつきがあり、この格差をなくす取り組みを実施する必要がある。
0405	成績評価、単位認定、学位授与については概ね適切に行われているが、前期課程の修士論文および修士研究発表について、その合格基準は審査を行う主査、副査に委ねられており、研究科として基準が定められていない。博士学位請求論文の申請・受理に関しては医療系研究に合致した審査基準が整備されている [0405a] [0405b]。
長所・特色	
0405	医療系研究に合致した博士学位請求論文の申請・受理に関する審査基準が整備されている [0405a] [0405b]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0404	授業がシラバス通りに実施されていることの検証を行うことが望まれる。【B】 学生の主体的な参加を促す工夫が、研究科内で格差をなくすよう取り組むことが望まれる。【B】
0405	前期課程の修士論文および修士研究発表について、研究科として合格基準を定めることが望まれる。【B】 なお、ヒアリング時、参考にしうる先例の提供が求められ、国際人間学研究科の「学位論文審査基準内規」及び「入学試験出願資格事前審査に関する内規」が参考資料としてヒアリング後に提供された。

ピアレビュー委員会 (第3部会)

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

総評	
0501	入試前に研究指導予定教授と受験者が、研究テーマのマッチング等、研究を円滑に進めるための相互の確認のため、事前面談を行っている。入学者受け入れ方針の作成、公表については適切に取り組んでいると思われる [0501a][0501b][0501c] [0501d][0501e][0501f]。 A Pが適切に定められ、公表されている。
0502	入学者選抜についても制度や運営体制が整備され適切に運用されている [0502a][0502b]。
0503	収容定員に対する充足率は、年度や専攻により相違があり適切な管理が難しい状況である。 専攻にもよるが、後期課程で定員が充足されていたり、社会人経験者の受け入れが行われていたりするなどの特徴が認められる。収容定員に対する在籍者比率が適正とは言えないと評価しており、その改善に向けた実際の取り組みが必要である。なお、提案はいくつか挙げられている。
0504	A Pに基づいた入学者受け入れという点では適切に管理されているが自己評価がDである理由は、A Pに基づき適切な大学院生が獲得できているかの検証が行われていないこと、また大学院生数の充足率が低いため検証が難しいことなどが今後の課題と考えているためである [0504a][0504b]。
長所・特色	
0501	入試前に研究指導予定教授と受験者がマッチング等のための事前面談を行っている。
0503	専攻によっては、後期課程で定員充足されている、社会人経験者の受け入れが行われているなどの特徴が認められる。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項	
0503	収容定員に対する充足率を改善・適切に管理する方法について検討する必要がある。【B】
0504	A Pに基づく適切な大学院生の獲得ができていないかの検証を行う必要がある。【B】

ピアレビュー委員会 (第3部会)

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 6	教員・教員組織
------	---------

総評	
0602	教員組織が適切に編成されている [0602a] [0602b]。
0603	教員採用、昇格ともに規則が整備され、それに従って適切に実施されている。大学院の指導資格審査は研究科委員会が行っているが、指導資格審査の規程に関する記述がない [0603a]。
0604	組織的なFD活動が実施されており、また専攻ごとではあるが、講演会や情報交換会が開催され、積極的な取り組みが行われている。ただし、参加率やそれを向上させるための取り組みなどについての記述がなく、組織的な取り組みとなっているかは不明確である [0604a] [0604b] [0604c] [0604d]。
0605	個々の教員の教育・研究活動について点検・評価が行われており、適切な取り組みが行われている。ただし結果として、教員間での格差がみられることが問題として把握されたので、その改善に向けた取り組みが必要である [0605a]。
長所・特色	
0604	組織的なFD活動が実施されており、また専攻ごとに講演会や情報交換会が開催され、積極的な取り組みが行われている [0604a] [0604b] [0604c]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし。	

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 7	学生支援
------	------

総評

0702 専攻主任、主指導教員、副指導教員による複数支援体制が評価できる [0702a]。
ハラスメント防止策の一環として毎年研修会を開催し、またキャリア支援課の「チャレンジ就活」に大学院生を積極的に推薦し、就職活動を支援している [0702b] [0702c]。

長所・特色

0702 専攻主任、主指導教員、副指導教員の複数支援体制を取っている [0702a]。
ハラスメント防止策の一環として毎年研修会を開催し、またキャリア支援課の「チャレンジ就活」に大学院生を積極的に推薦し、就職活動を支援している [0702b] [0702c]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項
【B】・・・検討を要する事項

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 8	教育研究等環境
------	---------

総評

0802 学科同様、教育研究用の機器備品の老朽化という問題があり、毎年点検、検証の上、学長ヒアリングを通して優先順位をつけて更新の要望がなされており、適切に対応されている。[0802a] その結果、学科間、専攻間の基準面積格差があることが明らかとなったとあるが、その格差の妥当性を検討、改善を行う必要がある。

0806 適切な点検作業が行われている。

長所・特色

0806 各種の制約がある中で、中長期計画を立て、優先順位をつけて対応していること [0806a] [0806b]。

留意点

*各項に留意点レベルを記入

【A】・・・緊急の改善を要する事項

【B】・・・検討を要する事項

特になし。

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織	生命健康科学研究科
--------	-----------

基準 9	社会連携・社会貢献
------	-----------

総評	
0902	研究科として組織的に社会連携を進めているわけではないようであるが、研究所と協働して、医療系有資格者や地域住民に向けた研修会等を開催していることは評価できる。[0902b]。 個人レベルにとどまっているとされる社会貢献が、専攻や研究科として組織的に行われるようになればさらに望ましい。
0902	国際交流は十分とは言えない状況だが、問題意識をもって進められている。
長所・特色	
0902	生命健康科学研究科と協働して地域に向けた研修会を開催している点[0902b]。
0902	医療・保健・予防・健康事業・介護事業等の領域で社会貢献、地域交流の実績を上げている。
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0902	国際交流が個々の教員レベルに留まっている。【B】

2019 年度 (対象年度 : 2017~2018 年度) ピアレビュー報告書

評価対象組織

生命健康科学研究科

基準 11

大学独自の評価項目

総評

1120 研究科委員会が定期的に行われ、組織の運営、活動は適切に行われている。また、出席率も高い点は評価できる[1120a]。
 さらに、医療分野による特殊性・専門性があり、その各分野の専攻ごとに専攻会議をもち、院生の各種支援について検討されている点も評価できる。
 ただし、研究科独自の委員会活動が明確化されていない点、専攻間の連携、研究科のまとまりという点において欠けるものがあるということであり、今後の改善が望まれる。[1120b][1120c]。

長所・特色

1120 研究科委員会が定期的に行われ、組織の運営、活動は適切に行われている。また、出席率も高い点は評価できる[1120a]。
 さらに、医療分野による特殊性・専門性があり、その各分野の専攻ごとに専攻会議をもち、院生の各種支援について検討されている点も評価できる。

留意点

*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項
 【B】・・・検討を要する事項

1120 研究科独自の委員会活動が明確化されていない点、専攻間の連携、研究科のまとまりという点において欠けるものがあるということであり、今後の改善が望まれる。[1120b][1120c]。 【B】